

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0194700555), 法人名 (特定非営利活動法人 松沢の郷), 事業所名 (松沢の郷 グループホーム松寿苑), 所在地 (上川郡清水町字熊牛11番地), 自己評価作成日 (令和3年2月11日), 評価結果市町村受理日 (令和3年3月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム松寿苑は、平成28年4月の開設以来次の理念を掲げ、その実践に力を入れています。
①私たちは地域の皆様との交流を通し、安心して生活できる地域社会を築いていきます。
②私たちは暖かく清潔な環境の中で、利用者個々の尊厳を大切に支援していきます。
③私たちは思いやりをもち、笑顔を決やさず明るく見守っていきます。
④私たちは御利用者様が御家族様と過ごされてきた時間を想い寄り添っていきます。
この理念のもと利用者本位の介護サービス、すなわち、利用者と共に生活を送り一人ひとりの思いが実現でき、充実した生活ができるよう日々支援を行っています。そして、単なる職員と利用者という関係ではなく、皆で一つの家族として生活を共にするよう心掛け、実践しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0194700555-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年2月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所、「松沢の郷グループホーム松寿苑」の開設は2016年で、廃校となった同地区の旧松沢小学校舎を借り受け、地域住民の介護の場として老人クラブがNPO法人資格を取得し、開設に至った経過がある。旧校舎と一体化した新築の当事業所は、1ユニット9人の高齢者の生活を維持し、4年前に開設した小規模多機能事業所と共に、地域の福祉と介護を全面的に担っている。当事業所の優秀な点として、地域住民との連携を挙げたい。開設の経緯が、当地区で100年続いた小学校舎を介護事業所として再生し、この思い出が残る校舎で介護を受けたいとの願いで、住民自らNPOを立ち上げており、自分達の思いが反映した事業所といえる。具体的には、冬季の除雪、災害訓練等の住民参加、グラウンドを利用した農作物の作成、また差し入れも頻繁で、信頼できる関係が相互に維持されている。介護についても、目的を持った介護を目指し、帳票類も工夫され、介護計画に沿った実践に取り組んでおり、また個人別のアルバムを作り定期的に家族宅に送るなど、職員一人ひとりの意欲の高さと実行力について大いに評価したい。今後も「松沢の郷グループホーム松寿苑」に期待していきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職場内に掲示し、理念の各項目を日々再確認し、思いやりの心をもって介護にあたっている。	「みなさまとの交流を通して、安心できる生活…」 「暖かく清潔な環境の中、尊厳を大切に…」 「思いやりを持ち、笑顔をやささず明るく…」を理念として重要事項説明書に明記し、実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会や老人クラブ、ボランティア団体等との交流を継続している。施設敷地を利用した地域行事への参加、町内外の芸能・文化サークル等の慰問の受け入れなど、地域との強い繋がりができてきている。	地元が必要とした事業所であり、理事も地元の人で、各種行事では地域一帯で取り組み、当事業所と小規模事業所が両輪として、地域の福祉、介護を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険事業ばかりでなく、役場と連携し地域独居老人宅等の声掛け、見守り事業を実施するなど、地域から大きな信頼を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、事業の推進状況・利用者生活状況の報告、さらに、運営全般に関するアドバイスをいただきサービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに定期的に開催され、行政や地域代表の参加を得て事業報告や行事等を報告している。またヒヤリハットや事故も積極的に公開し、地元の事業所として地域の活性化にも取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町及び包括支援センターとの連携をより一層強化し、利用者の状況を共有しサービスの向上に努めている。	小さな町であり行政や包括とは馴染みの関係で、日常的に役場の窓口に出向くよう努め、連携がさらに強く構築できるよう協力体制で臨んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は開設以来全く無しで実践している。委員会を年3回以上、全体研修を年2回以上定期的に実施。五つの基本的ケアを柱に身体拘束の廃止。より良いケアの実施に向けて工夫定着に努めている。施錠もできる限り開錠に努め、訪問者も含め自由な出入りができるようにしている。また、手すり等の設置も利用者の障害にならないように工夫している。	身体拘束廃止推進委員を選出し、毎月のユニットケア会議にて身体拘束廃止推進会議を開き、利用者全員の介護について検証している。会議内容は全職員に周知している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のケア会議・全体会議会議を利用し高齢者虐待防止法をしっかりと理解させるよう職員に徹底を図っている。管理者は虐待を見逃ごさないよう注意を払い、虐待防止を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は、研修会等を活用し、成年後見人制度について学び、制度の理解に努めている。現在のところ制度利用対象者及び必要度の高い人はいないが、いつでも対応が可能である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用相談の段階での説明を十分に行い、契約にあたっては、家族や利用者の十分な理解を得て契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では家族代表の方にも参加していただき、十分意見を取り入れている。また、利用者や家族のとの話し合いの場を持ち、その意見が十分反映されるようケア会議等で検討している。	利用者家族に写真集、アルバムを作り、お手紙を添えて利用者の日々の生活の様子を伝えている。また事業所の行事には家族を含め多くの地縁者が参加し、意見や苦情も聴取しながらサービス向上に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議及びケア会議、さらに毎朝のミーティングで職員からの意見を出し合い、運営に反映させている。	毎月定期的な会議が3回あり、毎朝の申し送しも活発な論議提案が行われている。また少数名陣営であるが、必要に応じて面談も設定し、職員の意見を集約している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の増員に努め、早・遅出や夜勤帯の勤務体制の整備など、シフト体制の整備を行っている。また、処遇改善加算金を活用し、給与水準の引き上げ等もやっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の所内研修を実施している。また、各種研修会の参加や各種資格取得に積極的に取り組むことが出来るよう、受験に要する経費を法人が負担することにより財政支援をしている。本年度は、認知症ケア専門士認定試験に1名が合格した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム等職員との交流会に参加し、同業者との交流や情報交換の場としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に接触し、会話を持つように心がけている、不安を和らげ要望もできるだけ聞き入れながら、本人の安心を確保し不安のない落ち着いた生活が送れるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と会う機会を多く持ち、生活の様子などを細かく伝え、家族の心配や不安も取り除くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に、本人と家族のニーズを把握して、スムーズな利用開始に心掛けている。特に利用初期の段階では、使用開始前のニーズが合致しているか職員間で検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やおやつなど職員も一緒にとり、レクリエーションや行事も一緒に楽しむよう努めている。洗濯物の整理、調理の手伝いなどもしてもらい、日常に近い生活環境を構築し、互いに支え合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡ノートを活用する他、誕生会や季節の行事等の施設での生活の記録(写真を含む)を作成し、随時利用者の様子が家族に伝わるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物、外食のほか、地域のお祭り、花見、老人クラブの行事等にも参加し、施設内で引きこもりにならないようにしている。	当地域は明治からの開墾地で、当学校で学んだ利用者も多く、校舎やその周辺自体が懐かしい馴染みの場となっている。事業所の行事にも多くの地縁者、地元住民が参加し、利用者一人ひとりとの関係継続に役立っている。また猫も同居しており、普通の生活の継続となるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく交流できるよう、雰囲気づくりに努めている。利用者同士の相性なども把握し、良好な関係が構築できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で一時的に契約解除になった場合でも、頻繁にお見舞いに行き、本人や家族に状況を確認する等密接な関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や家族の意向、本人の希望を参考にサービス計画を立て、その実現に努力している。	毎日の生活に寄り添い支援してきた中から、好き嫌い、思いや願い、また人生の終わり方についても利用者から具体的思いを聞き取り記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に、これまでの地域での生活歴や暮らし方を確認し、自然な形でサービス提供が出来るよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりを十分に見守り、一日の過ごし方や本人の健康状態等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの課題を見つけ出し、家族の協力を得ながら、職員会議やケア会議を通じ解決に努めると共に、現状に即した介護計画の見直しに随時努めている。	介護計画は基本6ヶ月ごとに見直し、立て直しているが、日々の介護について、チェック表を用いて進行管理をしており、短期目標のみならず介護全般についても把握できる仕組みであり、現状に沿った介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス状況等の支援経過や記録の申し送りにより、職員間で情報を共有し、実践に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応する、柔軟な姿勢で臨んでいる。小規模多機能施設としての長所を生かし、訪問や通所の組み合わせやレクレーション、外出等をサービスに盛り込むよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町と連携し、地域の高齢者見守り事業の実施や施設に隣接する広い土地を活用した野菜作り、子供達を含めた盆踊り等、地域と密着した活動をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の中には通院者も多くおり、かかりつけ医と十分な連携をとりながら適切な医療が受けられるよう努めている。	小さな町のため医療機関も限定され、かかりつけ医も協力医の場合が多く、また状況によっては往診医も活用し、併設の小規模事業所の看護職のアドバイスも受けながら、安心できる医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は観察・報告・相談等看護職員と連携を取り、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、安心して治療に専念できるよう病院への見舞いや医師との情報交換を綿密に行い、早期に退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在のところ、身体的重度の利用者や終末期を迎える利用者はいないが、いつでも対応が出来るよう研鑽を深めている。	医療的な問題から看取り介護は困難であるが、本人や家族の希望により、出来る範囲で取り組んでいる。また当事業所で終末を迎えた利用者も複数いるため、いつでも対応できるように、研修等を積み重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命講習(AEDの活用等)を受けている。マニュアルを作成し、全職員が応急対応が出来るよう訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けながら、避難訓練の実施。また災害時マニュアルを作成し、職員会議等で避難体制を確認し、災害時等に十分対応できるようにしている。また、町内会にも災害時の後方支援についてお願いをしている。	年2回の避難訓練を住民の協力により実施している。また当事業所に併設している旧学校の体育館が地域の避難所に指定されており、非常時の発電機も完備し、不意の災害に備えている。	地域住民との連携した避難訓練等、利用者の安全対策の徹底に敬意を表したい。今後は災害別のマニュアル、特に地震対策についてマニュアル化し、安心と安全な生活維持におよ一層取り組む様、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴や現状把握に努め、誇りやプライバシーへの配慮を職員間で徹底している。	接遇は介護の要であり、プライバシーの確保や人格の尊重を旨として介護に臨み、研修や会議、個別な介護でも礼儀を忘れないようにと話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進んでいる利用者も多く、うまく自分の意思を伝えられない人もいますが、日常生活の中での会話、態度、表情から思いを汲み取り、自己決定が出来るよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活のリズムはあるが、細部の決まりごととは無く、レクリエーションへの参加や利用者間の交流も個人の希望に沿って、その人のペースで参加できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のみだしなみやおしゃれに配慮して、洋服等の買い物も支援している。定期的に理容・美容店に来ていただき、身だしなみを整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事を提供する中で、利用者と職員と一緒に食事の準備からあと片付けまで行っている。また、利用者の嗜好を把握し、手づくり寿司やパンバイキング、外食(感染予防の為にテイクアウト等)なども定期的実施している。	食事はすべて手作りにこだわっており、利用者には調理の過程でお手伝いもお願いし、また定期的に外食にも出かけて、食事を楽しめるよう工夫している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給や食事量、栄養バランスに配慮した食事やおやつ、湯茶等の提供に努めている。また、ソフト食など個々の健康状態に合わせた食事等にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、訪問歯科によるケアも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し個々の排泄パターンを把握し、利用者のサインなども見逃さないように、トイレへ誘導し、排泄の失敗がなくなるよう努めている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者一人ひとりに合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維の摂取に心がけ、便秘の予防に取り組んでいる。また、規則的な排便習慣ができるよう誘導している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を実施し、本人の希望にあわせた曜日や時間帯を設定しながら対応している。	お風呂のお湯は日曜日以外は毎日入れて、誰でも入れるように準備し、週に2回以上は入れるように努めている。また拒否者には無理強いすることなく、日や時間、担当者を調整しながら、ゆっくりとした楽しいお風呂になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝時間は決めていなく、個々の生活習慣を大切にしている。夜眠れない人に対しても生活リズムを整え安心して睡眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している利用者も多く、職員も一緒に病院医師の説明を受けながら、薬の目的、用法、用量を理解し服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や生活力に合わせ、散歩、菜園づくり、編み物、カラオケ、かるたやゲームなど毎日の生活が楽しめるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って、公園、動物園、美術館、買い物、外食などの機会を提供している。また、地域の花見や行事にも参加するなど、外出の支援をしている。	外出はその人の希望を取り入れながら行っており、買い物や散歩、庭の花や事業所の畑の見学にも出かけ、また地元のお祭りや花見の会などにも参加し、閉じこもらない閉じ込めせない介護に徹している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て、金銭管理のできる方については、自分で所持してもらい、買い物等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡や手紙の代筆、郵便物保管等の支援をこまめに対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、七夕、クリスマス、お正月、節分、ひな祭り等季節感のある装飾や、テーブル・椅子の配置、娯楽空間の提供にも配慮している。また、室温や光の取り入れ、照明等にも十分配慮し居心地よく過ごせるよう工夫をしている。令和元年6月に、エアコンを設置して快適な空間とした。	居間兼食堂は広く明るい共同空間となっており、温度や湿度も適正に管理されている。飾りつけも季節感あふれており、居心地のいいスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、交流スペースとも広く、一人の時間を過ごせたり、利用者同士が集まって十分な交流ができるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は十分なスペースがあり、普段使い慣れたものを持ち込んでもらい、居心地良く過ごしてもらっている。	居室には使い慣れた家財や家具が持ち込まれ、自分の部屋としてゆっくと過ごせる工夫が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう、ソファや椅子を配置している。また、カレンダー、写真、看板なども利用者の目に付くように設置し、季節感や日常の生活感がわかるよう配慮している。		